

平成 29 年 10 月月例記者会見

会見記録

1. エコバッグを利用した残薬調整運動実施

【 概要説明 】

市長 エコバッグを利用した残薬調整運動でございます。生駒市と奈良県薬剤師会生駒地区薬剤師会のみなさんとはいろんな経緯を経て、今は適切な薬の使用であるとかジェネリック等を通じた調剤費の適切な形での削減というような事、様々な取り組んでいるところでございますけれども、今回いろいろとそういう活動を通じた中で、こういうエコバッグというか、鞆を活用して、例えば必要以上の薬を利用されているような方であるとか、適切な薬の飲み方をされてるのかどうかというようなことを、薬剤師の専門家の方にいろいろと薬を調整していただいたり指導いただくような、そういう風な取り組みを始めたいと思っております。

始めたいと申し上げましたが、基本的には薬剤師会さんの方が主導していただいている取り組みでございますので、今日は会長にお越しをいただいております。詳細は、後ほど会長の方からあると思っておりますけれども、この残薬調整運動、別の所ではブラウンバッグ運動と呼ばれたりして、福岡の方でありますとか、橿原市・大和郡山市・香芝市なんかも今やっておりますけれども、適切な形で調剤費の削減にもつながる取り組みとして広がっているところでございます。先程申し上げましたけれども、この残薬調整運動だけではなくて、今会長とはいろんな形で連携させていただいてまして、例えば「福祉と健康のつどい」とかの会場でも出張薬相談みたいな事もさせていただいておりますし、皆さん良くご存知かと思っておりますけれどもジェネリック医薬品の関係のいろんな取り組みでありますとか、また後ほど少し詳しくご説明あるかと思っておりますけれども、薬局で簡単な健康のセルフチェック、簡易健康診断みたいのものをやっていただいたり、本当に多岐に渡る取り組みを薬剤師会の皆様のお力を得て取り組んでおりますので、何卒よろしくお願ひします。その一環としての残薬調整運動ということでございますので、詳しくは会長の方から、お願ひしてよろしいでしょうか。

(奈良県薬剤師会生駒地区薬剤師会会長からの説明)

【 質疑応答 】

記者 協力 20 店舗はいずれも生駒市内ということでよろしいでしょうか。

市長 はい、そうですね。

記者 これは、基本的なことで申し訳ないのですが、生駒市との係わりというか、生駒市はどういう役割を果たしているのですか。

市長 中心的には、薬剤師会さんの方でかばんの方も作っていただいたりとか、薬局への呼びかけとか、いろいろ準備していただいたりするのには、薬剤師会さんで今回はやっていただいております。我々は、

まさに今までやってきたような医療費の削減的な事もそうですし、飲む薬が重複したり、不要な薬を飲んだりとか、飲み合わせみたいな事とか、いろいろそういう所を気を付けましょうねというような広報とかそういう事はずっと今までやってきてますので、広報の面でありますとか、そもそもこういう活動していただけてますという、そういう部分で市民への呼びかけというところが今回は中心なので、今回は薬剤師会さん中心の取り組みだと思います。市の取り組み・方針と合って、ご協力いただけてる、引っ張っていただけてるようなところがございまして、そういう形で連携させていただけてます。

記者 なぜ有効活用が出来て、なぜ医療の削減につながるのかという事が、若干ちょっと理解しにくいのですが。例えば、医者から薬をもらって残るということは飲み忘れがほとんどですよ。

薬剤師会会長 そうですね。

記者 飲み忘れの薬を薬剤師さんの所へ持って行くと、なぜ、それが有効活用になるのか。

薬剤師会会長 1日3回飲まれるお薬、朝・昼・夜とございますが、よく忘れられるのがお昼持つて行くのを忘れたとか、夕食を外食されて家に帰ってきて飲むのを忘れたとかいうので、結構忘れる方がいらっしゃいます。残った分を次の診察に持って来ていただきましたら、その分の薬を減らすことが出来ます。例えば、1日3回30日分90錠を出さないといけないところを20錠ほど飲み忘れてましたと、今回70錠で1ヶ月分という形でできますね、今回は飲み忘れないでくださいね、という形でお渡しするんですが、そこらへんの数がもの凄いです、実は。あと、先程も申しましたように、重複投与、似たような薬効のお薬が別々の医院で出てたりするのです。例えば普段行ってる内科さんで胃薬もらってるのに、整形外科さんに行ったら痛み止めと胃薬がセットで出たりするのです。こっちの胃薬要らないんじゃないかということで、そこで薬剤師が見れば一目瞭然で分かりますから、こっち側のお薬要りませんよねと減らすことも出来ます。それを含めて袋に入れて全部持ってきてもらったら、ある程度整理しましょうというのを、もっと大々的に。今まではコンビニのビニール袋に入れて持って来てくれる方が結構居てたんですけども、こういうブラウンバッグがあれば、これで持って行けばいいんだというふうな意識付けという部分をやっていこうというのが、この事業の主旨でございます。

記者 例えば、重複投与なんかの場合の薬剤師さんの方からドクターに進言するというようなことですが、どういう形ですか。例えば書面とか。

薬剤師会会長 電話でやります。電話のやり取りで出来ます。薬剤師が直接医師という場合もありますし、受付の方を通してという形もありますけども、基本、病院・クリニックに電話して医師の了解を得て減らすと。もちろん、その経緯は全て処方箋・調剤録・薬歴管理指導簿にも全て記録して残しております。

記者 飲み忘れは、若干想定して。

薬剤師会会長 想定はしてない。基本、想定してはいけないのですけれども、飲み忘れないように飲んでくださいと我々は言ってるのですが、人間ですのでどうしても忘れるんですね。それを、いかにして減らしていくのが我々の仕事なのですけれども、なかなか、例えば朝起きてすぐ飲まないといけない薬、食べたらダメなお薬があるんです。その30分間横にもなれない、水しか飲んではいけない薬があるんですけども、1口でも何か食べてしまうとダメなんです。つい、今日はダメ、明日にしようと思ってはるんですけど、それをまた忘れてしまうので、それが結局1ヶ月残ってしまうというふうなのが現状です。飲んでくれと言われても忘れてしまいます。我々薬剤師でも飲み忘れてしまったということがあります。想定してるわけではないのですが、100%は飲み忘れを防ぐのは無理だと思います。

記者 薬の調整というのは、胃薬を内科と別のお医者さんが出したら、どうするんですか。2つの同じ胃薬は要らないとなったらどうするんですか。

薬剤師会会長 その場で分かれば、後から来た分の先生と当初処方した先生と両方電話して削減してよろしいですか、という了解を得てから削減いたします。

記者 処方箋に連絡先が書いてあるんですね。電話するんですね。

薬剤師会会長 はい、処方箋に電話番号書いてあります。電話します。

記者 そんな簡単なやり取りで出来てしまうのですか。

薬剤師会会長 出来ます。

記者 そうなんですか。

薬剤師会会長 薬剤師・保険薬剤師・保険医との療養担当規則で決まっていますので。疑義照会という。

記者 先生が診察中でも薬剤師から電話が来たら受けて。

薬剤師会会長 もちろん直接ではない場合があります。間を通して、受付の方を通してという形になるかもしれませんが、基本的にはドクターと直接やり取りいたします。

記者 ドクター居ない時に、夕方の6時とか7時とか。

薬剤師会会長 それは出来ないので、その時は保留いたします。

記者 その時の患者さんが来た時の。

薬剤師会会長 ちょっと待ってくれと言います。

記者 待ってくれて、その場では終わってないでしょ。

薬剤師会会長 その場では待ってない、一旦帰ってもらう可能性もありますし、その場で待たなくて、また後日取りに来るわという方もいたはります。いずれにしても、疑義が発生した場合に、そのまま処方することは禁じられていますので、それは出来ません。

記者 お薬手帳で解決する話ではないのですか。

薬剤師会会長 はい、それもあります。もちろん、お薬手帳を持っていただいて、ドクターに見せてねというふうな形で我々も普段からやってるんですけども。

記者 お薬手帳を持って処方するわけだから、お薬手帳でどれだけ処方されているか分かりますよね。

薬剤師会会長 分かります。

記者 それで解決しないという話ですか。

薬剤師会会長 そうなんです。それでも、ドクターは胃薬とセットの薬を処方してしまう。

記者 ドクターは出すけど、他のお医者さんの事知らないし、お薬手帳見ないから分からないけど。

薬剤師会会長 お薬手帳見せてくださいと。

記者 ドクターは見ないでしょ。

薬剤師会会長 ドクターに見せてもらうために、お薬手帳を持ってもらってるんです。

記者 知らなかった。薬局に行ったときに、今まで飲み合わせのいけない薬があるのがいけないと思って、持ち歩いてたと思うけど。

薬剤師会会長 もちろん、それもあるんですけども、例えば内科でかかって内科の薬が出ますよね。それをお薬手帳を持っていただいて、整形外科に行った時にこんな飲んでますとドクターに。

記者 それって世間で知られてるんですか。結構、病院通ってるんで。

薬剤師会会長 すみません。申し訳ございません。担当の薬剤師がちゃんとやってなかったんでしょ

うかね。本来は我々がちゃんとアナウンスしないといけない部分なんですけど。

記者 1度も言われたことないし。有名な話ですか。

市長 そういう所もペアで広報しないといけないのかもしれない。

薬剤師会会長 もちろんそれは、それぞれの方が診察券と一緒にお薬手帳を出していただくというのが前提で、それは一応お薬手帳にも書いてあるんですが。多分、端から端まで皆さん読むことはないと思うので。

記者 お薬手帳の役割というのは、知られてないのではないですかね。ちゃんと薬局で説明してないですからね。

市長 要は薬局だけで出しておけばいいと思ってる人が多くて。

記者 飲み合わせだと思ってました。

市長 診療所ですてくれと、あんまり言われることはないです。

薬剤師会会長 最近が多いですけどね。

記者 かなり、医者に行ってますけど、1度も言われたことないです。

薬剤師会会長 ドクターからも言われたことないですか。

記者 1度もないですよ。いろんなお医者さん行ってますけど。

薬剤師会会長 お持ちでしたら1度ドクターに出してみてください。どんな反応するか。

記者 県内で4例目と書いてありますが、エコバッグを利用している運動が4例目ってなんですか。

薬剤師会会長 そうですね。これ共通でやっています。

記者 エコバッグを利用した残薬運動が4例目で、それぞれ他市はいつ頃やってるんですか。最近やってる。

薬剤師会会長 そうですね。ずっと年度年度で4年目になるんですけども、この薬局ビジョン推進事業というのがですね。

記者 じゃ、1年目が橿原市、2年目が大和郡山市。

薬剤師会会長 大和郡山市・橿原市・香芝市・生駒市の順です。

記者 1年毎にこういう地区ごとに、生駒地区薬剤師会があって、最初が大和郡山薬剤師会でやったということ。

薬剤師会会長 そうです、そうです。

記者 それぞれ地区ごとにやる理由があるんですか。

薬剤師会会長 もちろん奈良県全体でやってももちろんいいとは思いますが、規模が大きくなりすぎるといふのと、予算的な問題です。

記者 私が知らなかったのは、たまたまこの自治体がPRしてなかったから。

市長 そうですね。大和郡山市さんはやっぱりジェネリックとかこのブラウンバッグの取り組みも結構早目からやっています。ジェネリックはもともと利用の割合が高いということもありますが。

記者 期間限定の取り組みなんですか。

薬剤師会会長 期間限定というかは予算が下りてきているその事業が今年度末までという形になってます。

記者 それぞれ、大和郡山市さんも1年目にやった、モデル期間限定ということ。もう、やってないんでしょ。

薬剤師会会長 いえ、やってはいるんですけども、その国からの予算でやってるか自分たちの予算でやってるかの違いなんです。

市長 モデル事業として1年やって、生駒市が4例目だけど大和郡山市も1年やって終わってるわけではないので、あとは自前で何らかの活動はしてると。

記者 エコバッグは配ってるんですか。

薬剤師会会長 配ってます。

市長 ブラウンバッグ運動はずっとやってると思います。それは市長さんも言ってますから。

記者 ブラウンバッグ、さっきから言ってますけどちょっと茶色なんですか。

市長 1番初めにやった所が茶色だったからかな。

薬剤師会会長 何でブラウンバッグっていうんでしょうね。

記者 ブラウンバッグって言うんですか。ずっと言ってるから。

市長 福岡県。福岡市でしたか。でやったのが多分初めなんですけど。

記者 福岡市。

薬剤師会会長 福岡市ですね。

記者 が、先駆け。何年ごろの話なんですか。

薬剤師会会長 大分前ですね、これやったのは。相当前からやってはります。福岡は早くからです。

記者 各地域ごとにデザインや色は違うんですね、エコバッグの。これは奈良だから鹿なんですか。だから大和郡山も橿原市も香芝市も同じデザインなんです。

薬剤師会会長 今回はデザインがまた違うんです。別のデザインでやってます。これは、ちょっと生駒で。

記者 これは薬剤師会のゆるキャラではないんですね。

薬剤師会会長 生駒地区でやる時にどれにしましょうかと、いろんな図柄があったんですけど、その中から可愛いのを選びました。

市担当者 大和郡山市さんは金魚の絵柄だったそうです。

薬剤師会会長 生駒なんで、たけまるくんになれば良かったなと思ったりするんですけど。許認可の関係でいろいろあると思ったんです。

市長 使ってもらって大丈夫です。

記者 20店舗の薬局って調剤薬局ですか。

薬剤師会会長 そうですね、基本調剤薬局がメインでやってる所ですが一般薬も置いてる所もありますから。全部が全部調剤薬局という形ではありません。一般薬もコーナーとして設けてる所もございますので。調剤薬局も基本、一般薬は絶対置かないといけませんので、少しは置いてあるんですが。

記者 薬局のイメージが広くドラッグストアまで。調剤薬局は処方箋持って行くような薬局。

薬剤師会会長 どちらに重きを置いてるかという部分にあると思うんですけども、調剤薬局でも一般薬を置かないといけませんし、一般薬局と薬局と名前が付けるからには調剤師をつけないといけないということですので。そこのスギ薬局さんの生駒店さんでも調剤やってはるので。

記者 ユニクロの所。

薬剤師会会長 すぐ、そこの所です。

記者 エコバッグ数量限定というのは何枚ぐらいですか。

薬剤師会会長 各薬局 20 枚です。

記者 400 枚。

薬剤師会会長 400 枚、配りました。残り一応 100 枚残しています。それは、今度、市民講座を予定してるんですけど、その時に配ろうかという予定にしております。

記者 使い方ですが、このバッグに家で眠っている薬をガサッと入れて薬局の方に持って行ったら薬剤師さんが見てくださって、指導いただけると。そういう使い方ですね。

薬剤師会会長 普段からかぶってなくても、飲んでるお薬があつて、今回もその処方が出てしまった場合に、これだけ残ってますから今回の処方是要らないですという電話をして削除していただくというふうな流れです。

記者 お医者さんに連絡して。

薬剤師会会長 そうです。すると、その分減らすことが出来ますので。

記者 だけど、賞味期限があるわけでしょ。

薬剤師会会長 あります。

記者 だから、家に眠ってる薬持ってこられても困る。

薬剤師会会長 それは、大きな問題なんですけれども、大体、図柄が変わりますので、古くなってくると。あとはロット番号とかを見れば大体。

記者 逆に自分が薬飲もうと賞味期限を見て、これは使えない薬ですねって。

薬剤師会会長 大体は見れますけど、調べれば何とか分かります。その人も大体分かってますので。いつ、そんなん出したかって。我々が見たら。これ前出した薬やな。括り方とかそれぞれ薬剤師も癖がありますので。あんまり古いのを持って来られても。やはり、5 年も 6 年も前の薬となるとちょっと問題ありますけども、1 ヶ月・2 ヶ月前のでしたら。常に言うわけですよ、配ってもっと早く持って来てねっていうのをちょっと促そうかなというふうな部分があるので、本当に眠らせてる薬を持ってこられると困りますので。

記者 今日、このバッグは持って来てるんですか。

薬剤師会会長 ございます。現物ですか。後で写真撮るんでしたらお預けしておきます。

2. 給食献立アプリ「4919(食育)for IKOMA」を給食献立表からダウンロード

市長 2 点目は給食献立アプリの「4919 (食育) for IKOMA」というアプリの話であります。記者発表資料に若干書いてないところを、全体の少し大きな趣旨というか、今回の発表に当たって 3 つの大きな意味があるかなと思ってますので、そういう大きな話を少し私からいたしまして、今回のこのアプリの具体的な中身に付きましては提案者でもあり、またそのアプリの開発まで手がけていただけてます開発者の方から説明をするという形にさせていただきます。

まず、この「4919 (食育) for IKOMA」というアプリの生い立ちというかきっかけなんですけど、ちょうど 1 年前に「IKOMA Civic Tech Award 2016 生駒の未来アプリコンテスト」というのを開催をいたしました。ちょうど 2 日前に 2017 年のがスタートしまして、今年は自治会と IT という、これも実は相当面白いと私は思ってるんですけど、いちばん真逆にあるみたいなのをつないでっていうことで、こちらもまたご取材いただければと思います。3 回ありますので、あと 2 回あります。

さて、ちょうど 1 年前の「Civic Tech Award」でダブル授賞されたのがこの「4919 (食育) for IKOMA」

です。「Civic Tech Award」自体は、もう皆さんご案内のところもあるかもしれませんが、生駒市はいろんなオープンデータの取り組みとかをする中で、データをオープンにしてどんどん活用していただければ良いのですが、そのデータを市民の皆様とかいろんな方に使っていただく 1 つのきっかけや場所を作っていきたいということで、データを使ったこんなアイデアがあるんだよとか、そんなアイデアをちょっと形にしてみようとかというような場を作る意味でこの「Civic Tech Award」というのを開催しております。その中で、生駒市が公開しております給食の献立表の情報を使ってこの「4919 (食育 for IKOMA)」というアプリを開発者さんからご提案をいただき、当日、ダブル授賞ですねアプリ部門の最優秀賞といこまの未来市民賞アプリ部門のその 2 つをダブルで受賞されたのがこの提案であります。

3 つの大きな意味と申しあげたのが、1 つは今申し上げましたけど、いろんなオープンデータの活用でありますとか、この「Civic Tech Award」というような場を通じて実際に出てきたご提案というのを「結構いい提案出てきて良かったですね、はい賞状」という感じでおしまいになってるところって結構あると思うんですが、生駒市ではこの提案を担当課もかなりいろいろ考えてくれて具体的な形に今回出来た。11 月の給食センターの献立から QR コードを付けてこのアプリをオープンにしていくと。もうすでに試作品はオープンになってるんですけども、市民に大々的に公開をしていくという形で具体化されたというのが、そういう提案を形にしていけたという意味でとても大きな意味を持つかなというふうに思っておるのが 1 点目です。それを市役所だけでやるのではなくて、市役所ももちろん協力しますが、ご提案いただいた方にさらに汗をもうちょっとかいていただくという、人使いも荒いんですが市役所と市民提案を市民と行政が協働でやっていくという事が出来たのが 1 つの大きな意味でございます。

2 つ目が、市内にある先端大、非常に素晴らしい知の宝庫ですけれども、先端大との連携は今まで出前授業とか比較的限られてしまっているところがございますが、特にこの IT の分野を中心に、奈良先端大と生駒市がいろんな取り組みで具体的な形でいろんな取り組みを進めていこうという中で、ちょうどこういうふうな形でご提案をいただいて、開発者に進めていただいているというのが先端大と生駒市のコラボという意味でも非常に具体的な面白い動きかなと思ったのが 2 点目でございます。

最後は開発者からお話いただくことが多いので簡単にしますが、この今回の内容でございます。いろいろと全国的に見て給食のアレルギーの問題とか、非常に難しい、どうしても事故とトラブルというのがあるのが現状でございます。そのようなところは学校でもそしてアナログ的な紙の対応でも非常に生駒市の学校関係者・給食センターも含めてしっかりと対応しておりますけれども、同時にダブルチェックと言いますか、こういうアプリにしていつでもきちんとアレルギー情報が見られるというようなこと、そして今回まだ実装出来ていないんですけども、今後またプッシュ通信というような形で、例えばその日の朝に今日の献立はこういうので事前に登録してるアレルギーというのがこういうアレルギーが今日の給食には入ってますよというような最終確認的な、そういう補完的な機能も持たせていくことも考えております。そういう意味では、アレルギーの問題とか食育・給食の問題というものに 1 つ画期的な取り組みをオープンデータとアプリで出来るのではないかとこの中身のところが面白いかなというふうに思っております。

私からは大きく今回持つ 3 点の意味をお伝えをして、このアプリに対する思いとか、その中身のもうちょっと詳しいこととか、今後の動きも含めて開発者の方から少し補足をさせていただきたいと思っております。よろしくお願ひします。

(アプリ開発者からの説明)

市長 ありがとうございます。今、開発者がお話したようなことも会見資料に入れておけば分かりやすかったのですが。今、大体申し上げた通りでございます。開発者からなかったのも、この1番左側の食育のロゴなんですけど、よく見ていただくとローマ字で IKOMA を分解して再構成するところなるというので。実は、当日の「Civic Tech Award 2016」の発表があった時に、これが印象に残りまして、すごく上手に作られてるなと思います。さっきありましたけど「ごみ無し (5374)」というアプリが「CODE for」の金沢で作られ、今、生駒市版もあります。これも、実は生駒市が毎年配ってるごみの分別表に QR コードを入れてくれと言ってるんですけど、まだ入っていないかな。来年こそは入れたいと思ってるんですけど。この「ごみ無し (5374)」のアプリというのも結構生駒市でも使ってる人が増えてますし、金沢発のそういうアプリが全国に広がった事例なんですけど、これもオープンデータを使ってやっています。この食育アプリも給食センターのそういう情報があれば、どの自治体でも周りに使っていけるようなアプリなので、生駒の、あと先端大発のそういう生駒市のアプリが全国で給食のアレルゲン対応の補完的な1つの画期的なアプリとして広がっていくといいかなというふうに思っております。まず生駒市では11月の献立からこちらにありますような QR コードがついて、まだプッシュ通知は今は実装されてませんが、開発者とか「CODE for Youth」の方の力なんかも借りて今後していければ、さっき言ったようなメールでプッシュ通知が届くようなこととか、そういうのも出てくるのかなと思います。こちらからは大体以上でございます。何かご質問がございましたらお願いします。

【 質疑応答 】

記者 こちらのアプリは i - Phone 向けですか。アンドロイドに対応していますか。

市長 両方でできてます。

開発者 はい、両方配信されております。

記者 お話しの中にもありましたけど、発想の原点・問題としてはアレルギー対応ですか。

開発者 そうですね。

記者 各メニューをタップするとアレルゲンとかが分かるという。

開発者 はい。

記者 開発者は、おいくつでいらっしゃいますか。

開発者 今年、24歳になります。今、23歳です。

記者 生年月日は。

開発者 1993年11月28日です。

記者 こちら昨年の「IKOMA Civic Tech Award 2016」の方でという事ですけども、これは10月ですかね。

市担当者 Award 自体は年明けにあったので今年にはなるんですが、「Civic Tech Award」としては講座を何回かやりましたので、その講座が昨年の秋、9月24日にイベントをしまして、1月21日までにイベントも含めて計6回です。

記者 だから受賞したのは1月でしょ。

市担当者 最終の審査が3月4日にありまして。

記者 最終的には。

記者 昨年度の「IKOMA Civic Tech Award 2016」で今年3月に受賞されたということですね。

市長 そうですね。

記者 オープンデータの方は生駒市が提供している。

市長 給食に関するデータとかはそうです。

記者 生駒市の給食は小・中とやってらっしゃるんですかね。

市長 給食センターで作ってるのはそうです。保育園とかでそれぞれ出してる給食もありますけど、給食センターで出してるのは小・中です。

記者 今回対応しているのは小・中。

市長 そうですね。

記者 これは全ての学校について出来るんですかね。

市長 給食センターで使ってる分は。

記者 例えば自校給食があればですけど。

市長 いえ、生駒市は自校給食は小学校も中学校もないので。

記者 生駒市内の全小・中学校。

市長 公立の小学校・中学校行ってる方には。

記者 全公立小中学校ですね。

記者 先端大のどこの専攻ですか。

開発者 情報科学研究科です。

記者 情報科学研究科。

開発者 はい。

記者 この食育アプリの名前ですが、4919（食育）にしてるのは5374（ごみなし）に対抗して。

開発者 対抗というか、少し意識させてもらいました。実際、審査員としても福島さん「CODE for」金沢で代表されてる方が来られてたりしたので。

記者 分かりました。

記者 開発者はどういう動機というか、きっかけで「IKOMA Civic Tech Award 2016」に参加しようと思われたんでしょうか。

開発者 まず、プレイベントの時点で我々の研究室で開発しているアプリを実際に使っていただく機会があって、その時にまず、この「IKOMA Civic Tech Award 2016」の趣旨というか存在を知って、それから、いろいろ「CODE for IKOMA」でしたり、市役所の職員の方たちと触れ合っていく中で出してみようかなと思いました。

記者 このアプリは開発者がお1人で開発されたんですか。

開発者 はい、そうです。この「IKOMA Civic Tech Award 2016」のアプリコンテストの時点では1人で開発したんですけども、このAndroid版を追加するにあたっては同じ研究室の先輩に当たる方と一緒に開発しました。

記者 Android版は先輩と一緒にですね。これは、市の方はお金を使っているんですか。予算は。

市長 「IKOMA Civic Tech Award 2016」の開催費とかありますけど、このアプリ自体は申し訳ないんですけどボランティアでやっていただいてまして、こういう開発とかオープンデータを実際に具体

化していく時に、どういうふうな形でやっていくかと、今はご好意に甘えてるところもあるんですけど、その辺りは整理していかないといけないと思いますが、今回に関して言えば本当に開発者とか先程の松田さんもボランティア的にお力をいただいております。すみません、ありがとうございます。

記者 分かりました。

記者 「IKOMA Civic Tech Award」自体は2015年から。

市担当者 2016年からです。

記者 2016年から始めた。2016年が初めてだったんですね。

市長 いこママアプリみたいな、そういう形の取り組みは2015年くらいからやってます。が、「IKOMA Civic Tech Award」としてやったのは2016年から。

記者 賞はもう1つありましたよね。

市長 カレンダーのは何賞。

市担当者 アイデア賞。

記者 そっちは商品化の具体化は予定無し。

市担当者 一応、いこまちカレンダーだったと思うんですけど、そちらの方はまだオープンデータになってなかったものだったので、イベント情報なんかが。そちらはアイデア賞を取られて生駒市の方ではイベント情報をオープンデータ化させていただくという形で、今後そういったものにも。

記者 いこまちカレンダーは未定。

市担当者 そうですね、アイデアなので。

記者 こちらは、かなり煮詰まっていますもんね。

市担当者 こちらは、アプリコンテストで優秀賞を取られてるので。

記者 これは、もう今日からダウンロードできるんですか。

開発者 はい、随時していただけます。

記者 いつから出来てるんですか。

開発者 iPhoneアプリ自体は、コンテストに出す時点で、公開していることが一応条件としてありましたので、ダウンロード自体は今年の3月くらいから出来るようになってました。今の正式な形としては今年の9月くらいから出来る形になっています。

記者 でも、実際に使えるのは11月から。データが入るのは。

開発者 今、データも入ってます。

市担当者 入ってます。

記者 もう10月の献立も入ってるんですか。

開発者 はい。今、見ていただく形になってます。

市長 もう、今も見られます。

記者 11月から公開するというのが、整合性が。

市担当者 このQRコードを献立表に載せるというのが11月号からです。QRコードを献立表に載せるんですよ。載せることによって全保護者に周知できると。

記者 アプリ入れただけだったら見れない。

市担当者 このアプリの存在を周知するために、献立表に載せるんですけど。それが11月の献立表ということです。

記者 アプリ自体は存在してるけど、一般の人はこのQRコードがないとそこにアプローチ出来ないの。

市長 いやいや、別に出来ますけど。正確に言うと、本当はその9月に今の形になった時に発表すれば1番タイミング的には良かったのかもしれませんが。とりあえず、11月の給食センターの献立表でQRコードを載せて、そのタイミングで公立の小・中学校の保護者の方を中心にきちんとPRするというタイミングがそこになったというだけです。

記者 11月からPRするという。QRコードでPRする。

市長 はい、そうです。今、このアプリのストアとかで「4919」と入れてくれたら「4919（食育）for IKOMA」でインストールできるようになってます。

記者 紙（献立表）を各家庭に学校からプリントで献立表を渡されて、そのプリントにQRコードが付いている。そういうことですね。

市長 QRコード自体を献立表につけるんです。

記者 学校から各家庭に配る物ではなくて。

市長 配ります。

記者 そうでしょ。

市長 紙というのは、そういう意味ですか。紙の献立表の所にQRコードをつけます。

記者 そうですね。各家庭に11月分のが届くのは10月末くらい。

市長 そうですね。

記者 これは、ターゲットとしては子どもさん本人というよりも保護者の方をメインに考えてるんですかね、やっぱり。

開発者 はい、そうです。

記者 子どもさんよりお父さん・お母さんですね。

記者 アレルゲンの物が見えて分かってどうするんですか。

開発者 今のところは、手軽に確認できるという部分がにはなっているんですけども、今後、そのpush通知とかでダブルチェック的な意味で使っていただけるのを想定しています。

記者 チェックして、食べないんですか。

開発者 そうですね。今、給食センターとして。

市担当者 食べない。

記者 食べないだけ。

市担当者 はい。

記者 例えば、私の子だったらパイナップルがアレルギーなのでパイナップルが出る日は他の物を持って来てくださと言われてますけど。私の住んでる所は。

市担当者 そうですね。そういう感じで、事前に紙でお知らせしてますので、保護者の方はその場合は、子どもがかわいそうなので違う物を持ってくるというケースはもちろんあります。

記者 例えば、メインディッシュにアレルギーのある、例えばエビが入ってたらうちの子は食べられませんから、そうすると代用する物を家からお弁当代わりにおかずだけ持って行くということですね。

市担当者 そうです。

記者 それが、分かりやすく確認できる。別方法でもダブルチェックというから別の手段でもアレルギー物質を出してるんですか。

市担当者 献立表に載ってます。

記者 載ってるんですか。

市長 それは、やっぱりそちらがメインです。そちらで蛍光ペンとか引いて「この日はダメ」とかやるんですけど。

記者 でも、手軽ですよ。

市長 当日の朝、バタバタしてて朝に言い忘れてた時に、例えばメールや通知が届いて今日はその日だなという、そこのダブルチェックです。

記者 いいですね。

市長 それが push 通知ということで、今、実装されていないので、近い将来というかそういう意味ですけれども。こっちでも見られるということです。

記者 2枚目の絵は、毎回献立に合わせた絵がつくんですか。

開発者 ある程度の種類は限られてるんですけども。

記者 すごいなあと思って。限られてるけど、そこそこバリエーションはあるってこと。

開発者 そうですね、はい。

記者 牛乳がない日は牛乳がない。

開発者 そうですね。

記者 これは、過去の分のデータをさかのぼって見られるんですか。

開発者 android 版は 9 月のデータも見られるようにはなってると思うんですけど、i-Phone 版の方はその月だけにはなってます。

記者 今、入れてみてやってるんですけど過去のデータを触ると、勝手に停止になるんです。

開発者 すみません。対応しておきます。

3. その他の紹介案件

【説明】

〔保育士・幼稚園教諭を求めています！ - 資格をいかそう！相談会 -〕

市長 1つ目は保育士と幼稚園教諭の相談会でございます。いわゆる、新卒ではなくて保育士資格とか幼稚園教諭の免許を持っておられますけど、今は実際に職に就いておられない方、例えば「子育て中でそろそろ子育てが一段落がつくけど」という方とか「介護が理由で少し離れてたけどまた復帰しようかな。でもいろいろ不安もあるなあ」という方を対象にした相談会でございます。そういう意味では、ちょっといつもと違うというか潜在保育士の掘り起こしというような形の相談会でございます。という相談会でございますので、少し普段の採用説明会とは異なっておりまして、まず私の方も生駒市の子育てに取り組みなんかとこういう方に対する期待というのを少しご説明を 11 月 24 日にプレゼンをさせていただくと同時に、やはり潜在保育士といわれるような方ならではの懸念というか「今、戻りたいけどちょっと不安で戻れてない」理由というのが恐らくあって、例えば「週 5 日フルで行くのはちょっと厳しいから柔軟な働き方ができるかな。」とか、あとは「昔と制度が変わったりしてどういうふうにはなってるかな。」というようなことであるとか、あとは「年齢的に体力が持つか不安」みたいな事も書いてありましたけども。そういう、いわゆる潜在保育士さんならではの不安に答えるような説明会にしていきたいなと思います。もちろん、通常の説明会のような各園の紹介とかそういうこともやるんですけど、

それだけだと、なかなかニーズとか不安に対応出来ないと思いますので、そういうところにきちんと答えていくような相談会をして、やはり保育士不足で待機児童の受け入れが充分出来てないという側面も生駒市も若干ございますので、そういうふうな相談会をするということでございます。詳細につきましてはこちらに書いてあるとおり、11月24日と29日に行くということでございます。

詳細はこども課にお問い合わせいただければと思います。

【消防に触れ合う1日、ドクターヘリも飛来！ 消防フェスタ“IKOMA51”を開催します】

市長 2つ目が、消防フェスタであります。そもそも“IKOMA51”と書いてあるのは「何で51？」というのはあると思うんですけど。生駒市が、昨年50周年を迎えまして今年は51年目に当たります。なので、生駒市のこれから半世紀の第1歩ということで51というのを1つの思いとして付けているということでもあります。生駒消防はちょっといろいろ課題があった時期もあって、副市長時代に私も改革提言とかを取りまとめたりした時期もあるんですけども、その取りまとめの時期、改革提言を元に今非常に各隊員・職員頑張ってくれてまして、非常に良い方向に行ってるのかなというふうに思いますが、1つその時の改革提言の中にもあった課題の1つが、生駒市消防でやってる取り組みの広報とかPRというのが充分出来てないとか、自助共助が大切ですよと言いながら、市民の人とどういうふうに消防がコミュニケーションを取っていくのかというようなところで、今も自主防災会なんか消防の職員が行ったりしてますけども、もう少しアメリカなんかでもよくやってますけども、消防というものに身近に触れてあってもらう所というのを大切にしていくような機会も出初式とか以外にもうちょっと子どもたちを対象にしてやった方がいいんじゃないかということで、職員がいろいろ考えてくれて、今回、南の分署でフェスタを行うということであります。主なイベント内容としては、オープニングセレモニーで吹奏楽団が生駒南中学校から来てくれて、生駒市は消防職員のダンスチームがありますので、そういう所のコラボであるとか、そういうようなものをやるのが1つ。あとは、レッツ！守れーすと書いてありますが、消防版障害物競走みたいな感じかもしれません。生駒市の消防職員のそういう提案制度、提案制度が消防の世界にはありまして、数年前は生駒市の消防職員の提案が全国大会までいきましたけど。そういう市民への啓発等をどういうふうに効果的にやっていくかというふうな、そういう提案なんかいろいろと全国的に募集してコンテストをやってますけども、そういう所で生駒市の職員から出たのが、こういういろんな消防の取り組みとか対応というのをレースみたいにして体験していくイベントというのを実際にやってみようということでやります。あとは、放水訓練とかドクターヘリが緊急出動の時は来れないらしいですけども、ドクターヘリが来るとか。そういうような形で市民に消防の事をより身近に感じていただくというふうな取り組みをやってくれますので、今回1つ大きな話かなと思ってご紹介をさせていただきます。

【「IKOMA SUN FESTA」を今年も開催！】

市長 最後は、これは簡単なお紹介だけにします。去年、大変、大盛況に終わりました「IKOMA SUN FESTA」を本年も行うことにいたしております。去年の良かった部分とか、ちょっと渋滞がすごかったとか、人気すぎていろいろご迷惑かけたところもありますので、その辺りを改善しながら、また今年初めて出店していただく所とかもありますので、昨年同様に天気がいいことを願っておりますけども、たくさんの方がご来場いただくとお思いますので、何卒よろしく願いいたします。

私からは以上です。

【 質疑応答 】

〔保育士・幼稚園教諭を求めています！ - 資格をいかそう！相談会 -〕

記者 潜在保育士の相談会は珍しいですか。いいなあと思ったんで。

市長 県内では、あまり聞いたことないとは思いますが。担当課に、また後ほど聞いてください。

4. その他

〔衆議院議員選挙〕

記者 今、衆議院選挙が始まっていますけれども、今回、生駒市は2区から1区に変わったというところがあるんですけども、そこに関しては、まず市長としてはどういうふうに関心を持って、啓発活動もしていないといけないでしょうし、どういうふうな感じに思っているのかということと、今回の選挙全体をご覧になって、今回はこういう選挙かなというような、どういうふうな受け止めといいますか、どう見てはりますか。

市長 後者はスゴイ難しいな。前者は2区から1区になって、生駒の方は非常に情報へのアンテナも高い方いろいろニュース等も見られる方も多いと思いますので、かなりの方はそういう変更もご存知だと思うんですけど、中にはもちろん、やはり、1区に変わったという事を知らなかったとか、最近知ったとか、やはりそういう方もおられます。まず、投票に向けてそういう間違いとかがないように、選挙管理委員会でも非常に啓発活動、実際、投票の場所であったりとかで、「2区から1区になってますのでご注意を」みたいなそういう掲示であったりとかそういう広報はしっかりしてくれていると思いますし、2区1区の話だけではないんですけども、18歳以上の比較的若い人を立会人か何かそういうのを公募したりとか。その全体的な選挙に向けての投票率も含めて、あと周知も含めた活動というのは丁寧にやってくれているとは思いますが。なので、その辺りはきちんとやっていきたいと思えますし、2区から1区になってもしっかりと選挙に対して関心を持っていただけるように、そこはやっていきたいと思えます。というのが1つ。全体的な感じというのは、どういう部分を具体的に答えればよろしいでしょうか。

記者 雰囲気とか投票率とか前回と比べてどうかとか、今回、すごく政党がぐちゃぐちゃになったというか、いろいろ変わったりもして、前回との比較もなかなか難しいかと思うんですけど、そこを多分私たちもなかなか掴みにくいなと思うんですけど。選挙で選ばれたことのある方ならではの分かる事もあるのではないかと。

市長 1つは、意外とまだこれから中盤終盤というところもあるので、序盤は比較的静かな感じだなと思ったのが、私の個人的な感じではあります。ただ、中盤終盤である程度かなり選挙の方の訴えも激しくなってきたと思いますし、あとは政党がバタバタと党の中ですけれどもいろいろと変化があったということが初めは投票率のアップにつながるかなと思ったんですけど、逆にいろいろ政党に対する不信感みたいなものとか、そういうものが出てくる中で実際にそのいろんな政党が新しく出てきたり、いろんな再編成をしたことが投票率アップにつながってくるのか、逆にやっぱりあまりそこに対して思ったほどの期待感がなくて、全体としての投票率も下がったり、そんなには伸びないのかなって、初めは伸びていくと思ってたんですけど、そんなに伸びないのかなとか、そんなところは最近

感じるどころです。ただ、市としてはさっき言ったように、そういう政党がどうこうとかいう話に関係なく、やっぱり、しっかりと18歳まで引き下げもありましたし、普及啓発とかいろんな取り組みをして、投票率は上げていくというようなことはしっかりとやっていきたいと思いますし、選挙の投票日もミスがないように、後ろに投票箱が並んでますけども、職員しっかりと、生駒の選管は非常に頑張ってくれてますので、しっかりと当日の業務もしっかりやっていきたいと思います。

記者 今回の選挙で何が1番問われてると思いますか。

市長 そうですね、その各政党もいろいろ言ってますけど、問われてるのは結局具体的に現実的に今の日本の課題を前に、私の個人的な意見ですけど、今日本に残されてる出てきてる課題というのを具体的にきちんと前に進められるだけの現実的な取り組み・前進が出来るか、ということだと思います。自民党と公明党の連立政権もいろんな課題とか批判はありながら、一定、そういう部分で実績を出してきたところも私はあると思ってます。なので、今回新たに出てきたような政党が口先だけで言ってるのか、そうじゃなくて、きちんと政権を担って自分たちが具体的に前に進められるだけの、選挙の時だけ調子よく言ってるのではなくて、本気でそういうことをやっていく信じるに足る責任政党になれるのかというところを個人的にはしっかりと見ていきたいなと思います。

記者 今の話を聞いてると、ちょっと自公寄り。

市長 それは、どう取っていただくかはもう自由に。私はニュートラルでおりますけど。自公政権にも課題もあると思いますけれど。

記者 はい、それでいいですよ。

市長 質問じゃないんですか。

記者 1区でどなたか当選されたら行かれるんですか。

市長 まだ、全然決めてません。

記者 行く人多いんだけど、行かないタイプですよ。

市長 これから考えたいと思います。

(了)